

體格不良は困り抜く

之れを要するに、總てが今少し體育と云ふ事に重きを置かなければ、二十年、三十年の後に、大に後悔せなければならぬ事が起るだらうと思ふ。富豪が施療病院を建てるのも宜いが、もつと根本的に考へて、此等兒童の爲めに病氣に罹らないやう、運動遊戯場を設立するのが目下の急務であると思ふ。

低能兒や其の他のものは教育がし難いのであるが、病氣のものや體格不良のものには、教育が出來ないのである。之れを考へたなら、最も力を盡さねばならぬ事は此の事であると信ずる。

終りに現今の生徒は昔のやうに粗暴でなくなつた。なぐる蹴ると云ふやうな喧嘩などは、殆んど聞かなくなつた。之れは生徒が温和しくなつたのか、或はコスクなつたのか解らぬ。自分は或は後者ではないかと思ふ。どちらにも悪い所はあるがコスイと云ふことは、甚はだ寒心すべきことではあるまいか、此等の具合をよく吞込んで、適當に

取扱はなければならぬ。兒童を教化するのも亦至難な事業であると云はねばならぬ。

母としての實驗談

金森夫人談

夫人は、二十二歳をかしらに三歳まで九人の子女を有され、大學を始め、高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、小學校、幼稚園に至るまで、いづれも子女の通學しつゝあり、斯る材料を目前にひかへて家庭教育に心をこめられつゝある其經驗談なれば其心して讀まれんことを望む。(記者)

○生長したる子女には物事を命令せずして相談すべし 男子ならば中學校時代女子ならば高等女學校時代、すなはち中等教育時代の家庭教育も極めて大切なものであります。此時代には子女自身の思慮にて大分に物事が分る様になつた爲に、學問の事は獎勵せずとも自ら油斷せぬ様になり、小學時代迄に過つて悪い習慣のつきし事なども其大部分は取返し得るものであります。放任して氣をつけよといふ育兒上の格言はいよく適切となり、

放任しながら子細に注意して、完全無缺な人とならしめんことに努むべきであります。身體の健康も此時代に大に進むべく、人格も亦高くなり得るのであります。此時代に於て特に親の心得べきこととなり、とて私の平素尊敬せる西洋婦人がわざわざ注告して下さいましたことがございます、其れは斯ういふことです、子女が已に十七八歳にもなると自身に見識を備へて居るものであるから、小さい時と同様に何事でも命令するのは宜しくありません、十七八の子に命令すると、親の命令だから背きはしない、服従はするけれども心に快く思はない、故に此時代が来ると方針を一變して、子女を友達と心得て何事も相談相手として相談をかけるが宜しい、例へば「自分は斯う思ふが前は何か考へるか」といふ様に相談して事をさせると大層快くするのである。此事を教はりまして以來私は試めて居ますが、誠に好結果であります。

○子供等より學び置くことあり 母親は常に子供が學校にて學び居るとに注意して、此頃は如何なることを學び居るか、或は學校用品は如何なる物を用ゐる居るかといふ様なと迄でも、母たる者は心にかけて子供等より教はり置き、學校の事に疎くならざる様に心がくべし、例へば、或時私は鉛筆を買ひしに、子供は其鉛筆を何にするかと問ふ、是はお前の友達に進せん積りなりと答へしに、子供は笑ひて、今日は斯様な鉛筆を學校にて使用する者無しと云ひしとありき。かく學校の事に疎くなりては子供等も張合を失ふ様になるものであります、母親たるものは子供等の學ぶ所を熱心に注意を拂つて居る者となつておらねば、子供の爲に宜しくないのであります。

○親たる者は子供を鄭重に待遇ふべし 世間には子供を粗略にあしらふ惡習があります何子供ぢやからといふ心で子供の言ふことを鼻先であしらひ、或は「邪魔ぢや〜、其方へ往つて居れ」など、玩具かなどの様に扱ふのですが、是は大なる心得違であります。一方には斯様に粗略にあしらひながら一方には立派な人間に育つ様にと願ふのは、撞著した考へではありますまいか。粗略にあしら

ふ爲に子供に自重心といふものなく陋劣な行ひをも爲す様な悪癖を生ずるのであります。小學時代の悪習慣は前に述べた様に中學時代で大部分は直ることもあるが、根強く印したものは何時までも残り、大人となつては其強き意志の力で大抵は矯正して居るけれども、何處かに時々子供の時から悪習慣が顯はれるものであります。

○子供は云ふ通にはならぬが爲る通りにはなるいくら厳しく云ひつけても懇ろに諭しても、十が十、口で云ふ通りに子供が云ふとを聞くものではありませんが、或時期に於ては云ふとに何でも子供が反對するは誰も經驗のあるとでございませう、子供といふものは斯様に云ふとを聞かぬものであります。爲るとは、其通りに眞似んとするものであります。試みに子供がまゝ事をするを御覽なさい、其態度から、言葉から、其母親の眞似をする。誠に上手なものです。平素斯くまでに母親の容子に深く注意して其爲る所を見て居るのであります。故に親たる者は二六時中其言行に深く注意して居らねばなりません、大人は人に對して表だ

けを見せ其裏は匿して置きますけれども、子供は家庭の裏も表も知つて居つて、其裏表を其まゝ人に見せてしまふものであります。されば親が行ひを慎まない時は、子供の爲にならぬのみならず、子供を介して人の笑を招くことになりま

第一期の家庭教育

鹽野 奇 零

教育を大別して見れば三大別となる、第一は家庭、第二は學校、第三は社會といふやうに思はれます、而して第一期は専ら精神を確定せしむるもの、第二期は智能を啓發せしむるもの、第三期はその精神其の智能を實行する、言はば其の試験場である、故に世界は一大教場と見て宜しい、今は其の第一期なる家庭の教育所謂精神を教ゆる最も大切な學期の事につきその大要を述べん、之を又大別すれば三大別となりま

第一は胎育、第二は就學前の家庭、第三は就學中の家庭とに分けて話さなければならぬ。そして世間の父母たるも